様々な人

安来市立第三中学校　一年　　仙田怜桜菜

　みなさんの周りには、障がいを持っておられる方はいますか。

　私が初めて障がいを持っている方を見たのはテレビを見ていた時です。その時、私は、その方のことを怖いと思いました。現に今でも、その記憶は残っています。

　そんな私の考えを変えたのは、私の親族です。その人は発達障害を負っています。普段はとても優しく、前とはあまり変わらない様子なのですが、あることをきっかけに普段の姿とは想像もできないくらい興奮してしまいます。最初はびっくりしたし、正直落ち着かせるのも大変です。私は、自分の親族がまさか障がいを負うとは思ってもおらず、少し距離を置いてしまいました。ところが、障がいを負った本人は、自身の障がいと向き合い、悩んでいました。障がいを負うことは、本人や誰かのせいではありません。だからこそ、障がいを負った本人が一番辛くて、大変なのだと思い、今までの私の態度はまちがっていたと気づきました。自分でも、気づくのが遅かったと思います。それから、私はできるだけ親族の障がいについて調べ、理解し、向き合いました。そして、私の母が福祉の仕事をしていることもあり、最近障がいを持っている方たちの話を聞いたり、障がいを持っている方にピントを当てた番組を見ることが多くなってきました。その内容は良いものばかりとは言えませんが、話を聞いているととても感慨深いものがあります。障がいには様々な種類、特性があるので、一人ひとりの人と接していくことは、とても大変なことだと思いました。私は母から、ある障がいを持っている方の話を聞きました。その方は、

「自身の障がいとは、一生付き合っていかなければならないのだから、この障がいは自分の個性だと思って生活するようにしている。」

と仰ったそうです。私はそれを聞いた時、すごく素敵な考え方だと思いました。これは、障がい以外でも言えるのではないでしょうか。コンプレックスだって、一つの個性と言えると思います。

　私が障がいを持っている方を怖いと思ったのはなぜか、考えてみると、自分の周りに障がいを持った人がいなかったからということに気づきました。しかし、今のこの世の中に障がい者がめずらしいとは言えません。障がい者以外にも、この世の中には、いろいろな人がいます。これから、いろいろな人と関わっていく中で、それぞれの考え方や生活、個性などがあるので、それをしっかりと理解して、関わっていきたいと思います。

　今、私は福祉の仕事に興味があります。障がい者の身に寄り添って、以前の私みたいに先入観や偏見を持っている方に、きちんとした情報を届けたいです。みなさんは、先入観や偏見を持ったことはありませんか。一度はあるのではないでしょうか。その考えは本当に正しいのか、もう一度考えてみてほしいと思います。私は、親族や母のおかげで先入観や偏見を捨てることができました。

　今は、「共存」の社会です。障がい者やＬＧＢＴＱ、貧困で苦しんでいる方など、普段関

わりがある人でもない人でも、関心を持ち理解を深めてみてはどうでしょうか。